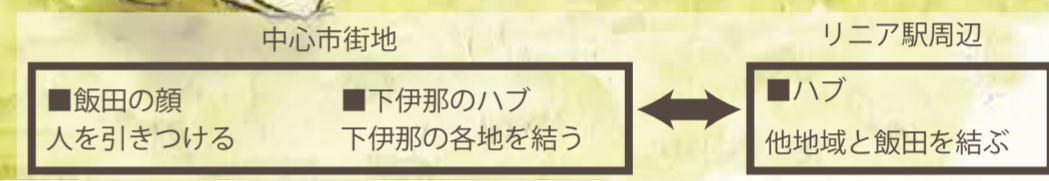
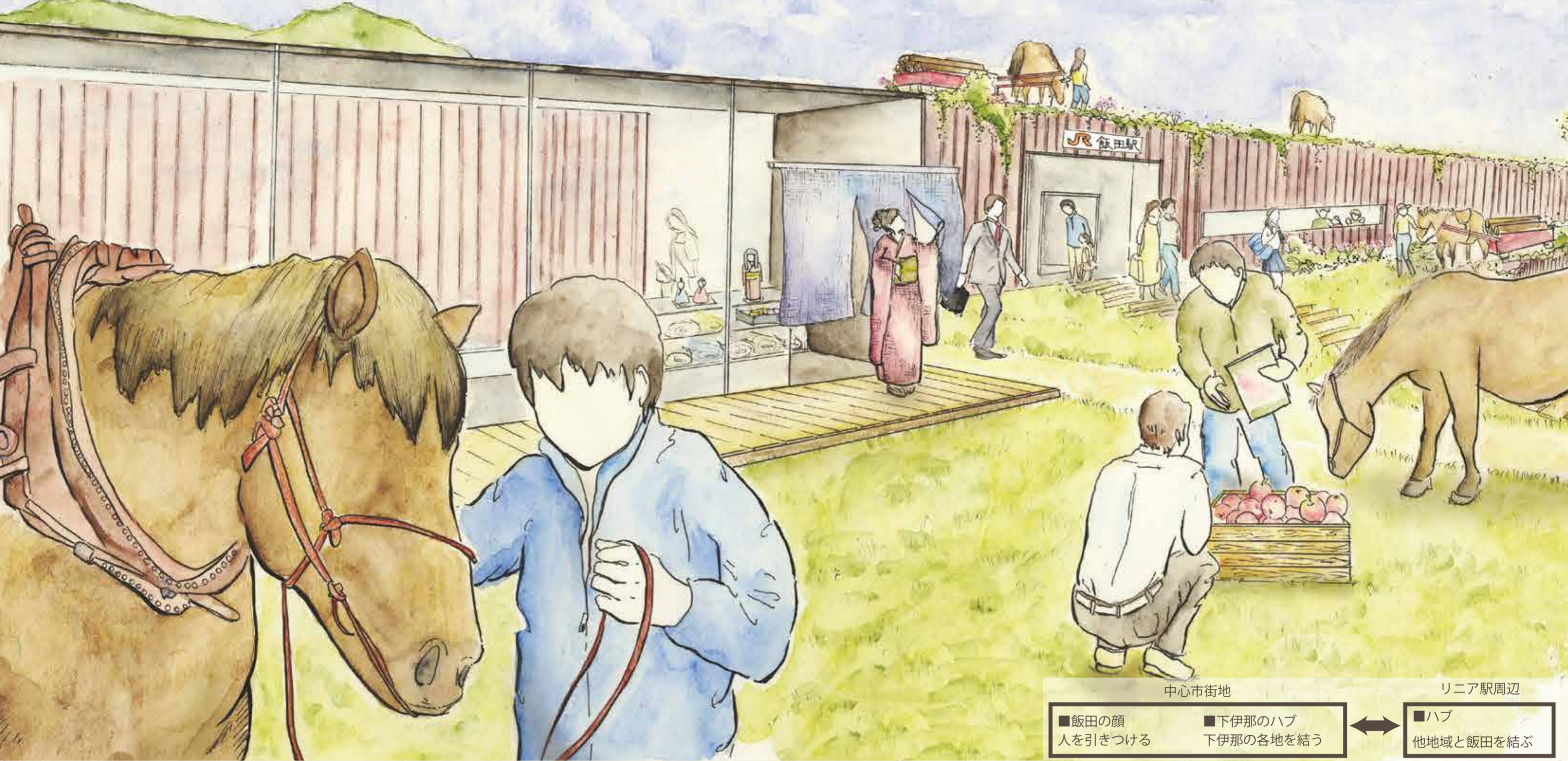


# 丘の上でみちくさ

## ～馬が導く 飯田の暮らしと生業のかたち～

■概要  
飯田の歴史を紐とくと、そこには生業と生活が関わり合っている。馬が中心市街地の賑わいがあった。馬が草を食みながらゆっくりと歩いていく様子が「道草」の言葉の由来。馬とともに、道草をしながらゆっくりとまちを歩くことで見えてくる新しい飯田の結いのかたち。



### 飯田の発展を支えた馬の歴史

①飯田は昔、馬を育てていた  
飯田と馬の関わりは古墳時代に遡る。その頃飯田・下伊那地域は馬の生産拠点となっていたとされる。

②中馬によって商品経済が発達した  
飯田が下伊那の中心の町として経済的に大きく発展したキッカゲは中馬と呼ばれる運送業が始まって全国の市場と結びついた事であった。五街道にならない伊那街道にも宿場が置かれ、飯田は地域のハブとしての役割を担った。

③独特な地場産業・文化が生まれた  
飯田の自然と伝統工芸 飯田織はりんごやサツマイモなどの天竜川に自生する様々な植物を染料としている。  
馬のホルモン料理おたくり 明治時代後半に入ると、馬の内臓を食べるようになり、おたくりと呼ばれる食文化が誕生した。

④地区の原動力であった商店街  
飯田の中心市街地では、知久町通りと中央通りの商店街が繁栄を極め、信州一の商都と呼ばれた飯田を牽引した。この商店街の活力が飯田の発展を突き動かす力であり、商店街の繁栄なしに飯田の気持ちはありえない。

### 理想：商店街と生活が関わりながら共に賑わう中心市街地

中心市街地のかつての賑わいの風景と“道”

昭和初期の銀座通りの活気  
知久町商店街を東に見た様子(昭和35年)

かつて中心市街地に活気が満ちていた頃、人が“道”に溢れていた。道に車は無く、商店街では道にアイスクリームの屋台が出たり、まちなかではチンドン屋に気をひかれたり、人を道に誘い込む仕掛けがあった。商店街での生業と人々の生活が共に関係し合いながら賑わいを生み出していた。

商店街に人が溢れて賑わいが生まれ 飯田を突き動かす活力になって欲しい

### 中心市街地の現状とその背景

■商店街は衰退してしまった

中心市街地商店街	H9	H14	H19	H19/H9
商店数(店)	420	329	261	62.1%
従業者数(人)	1,677	1,329	996	59.4%
年間売上額(百万円)	26,497	16,540	11,701	44.2%
売場面積(m <sup>2</sup> )	36,454	29,910	23,659	64.9%

その背景  
商店街の構造が車に合っていなかった。  
もともと歩いて周るのに適した構造を持つ商店街に、車は適しておらず、急速な車社会への転換について行く事が出来なかった。

■人の生活も賑わいを失った  
人通りが無く閑散とした中心市街地 歩行者数が知久町での減少が続いている。りんご並木など一部のみ回復。

■人々の交流の機会が減少  
かつて中心市街地は飯田市の人々だけではなく、下伊那の人々の生活の中心でもあった。しかし中心市街地が空洞化し、商業の郊外移転を受けて、人々が市街地に訪れなくなり、下伊那の人々の結いが解けてしまった。

飯田の課題：弱体化する地場産業  
■林業・農業 高齢化や不在村化が進み、後継者の森林への関心が低下している。管理放棄地が増えると、飯田の豊かな山の植生も失われてしまう。農場でも少子高齢化の進行、農産物価格の低迷により荒廃化が進んでいる。  
■工業 伝統工芸品などの売り上げが減少している。近年は飯田の強みである工業、地域に根付いている技術の応用に重点を置き異なる製品を作る技術を組み合わせる新産業を生み出す試みが行われている。

### 商店街と生活が相互に関係して賑わうために

■商店街は衰退してしまった。→ ■人と商店街をつなぐ  
■人の生活も賑わいを失った → ■人と道をつなぐ  
■人々の交流の機会が減少 → ■人と人をつなぐ

古来飯田の発展を担って来た【馬】を用いれば 全て解決出来る!

### 3つの“道”のデザイン提案

■馬道 -ひとと商店街をつなぐ  
中央通りと知久町通りの2本の商店街の街路を車を制限し歩行者のための空間にする。  
・中央通り： 駅からりんご並木に伸びる主軸  
・知久町通り： 大平街道へ伸びる歴史軸  
と捉え整備する。道に出るだけでなく、人がまちなかへ歩いて行くように馬が人を誘う。

■馬界線 -ひとと道をつなぐ  
まちなかを通る裏界線を馬が通れる道にする。裏界線を馬が通れる道にすることで、りんご並木など飯田のまちを横切る道どうしをつなぐことができる。裏界線は人びとの生活空間が込み出している。馬を介して生活と馬界線も繋がる。

■馬の駅 -ひととひとをつなぐ  
まちなかに歩行者及び馬の休憩施設として設ける馬の駅。ただの駅ではなく、それぞれに地区毎の特色を持ち、住人、観光客、お年寄り、若者など様々な人が立ち寄りたくなるような機能を持つ。この馬の駅を介して、道に出た人びとの間での交流を生む。

### 馬がもたらす+α: 結い

飯田の山を守る 飯田の斜面を利用する

飯田の新しい産業を作る

公民館 小学校 中学校 飯田産業センター 農産物加工場 観光客の誘引 新たな観光資源の創出

新聞社 飯田の新聞社と協賛して中心市街地では夕刊を馬が運ぶようにする。「馬が運ぶ新聞」として宣伝になる。

おもちや屋 既存の木製おもちゃ屋と協賛し飯田の木の木を使ったおもちゃを売り出す。

人形 飯田織 飯田和紙 飯田の人形づくりに、積極的に飯田の伝統工芸である和紙や織を用いることで、飯田の人形の特産品としての価値を高める

農家と連携して、採果した果物や商品にならない作物を染料として使う仕組みを整える

### 馬と暮らすために必要なこと。

えさ：放牧・運動場として中央公園の全面に牧草を植える。普段は乗馬体験や乗馬レッスンが行われる。

ぼろ(馬糞)：市街地内の各地に設ける「ぼろぼくす」に一度溜めておき一日に一回肥のために運んでいく。肥だめ運ばれた馬糞はそこで半年寝かされた後、農業の肥料となる。

おしっこ：ウッドチップには馬尿のおいをおさえるヒノキ材を用いる。月に一度、ウッドチップ入れ替えを小中学校の生徒が集まって行う。ここで回収されたウッドチップも同じように肥料となる。

水：ご用水を駅前広場から二本の馬道に流す。また、中央公園の一部を開業にする。

馬具：各馬の駅と中央公園・厩舎に倉庫を置く。馬具は市街地内の皮革製品加工場で作る。

### 馬のマネジメント組織

新しい顧客の創出 後継者の育成が可能

日本トレッキング 広告効果↑ 馬の世話指導 乗馬指導

飯田市 出資協力 知久町1~4丁目 中央通り1~4丁目

商栄会 教育機会提供 自治体 サポート 馬の世話 教育機会提供

人材協力↑ まちなか移動援助 シルバー人材 小中学校 馬クラブ 休日 中央馬場にて乗馬レッスン

商栄会 馬の購入や貸し出しなどを全体のマネジメントを行う。一商栄会から二人ずつ選出 5地区で10人の既奉行

活動内容：週に一度、公民館に集まり活動する(餌の用意、掃除、等)月に一度、中央公園の馬の家でミーティングを行い、馬の管理について決める。

### 馬が飯田を結い直す

本提案に関わってくる事業主体は合計30団体に及ぶ。馬によって空洞化の進んでいた市街地を舞台として、様々な主体が相互に関係し合い、飯田の結いを取戻す。

公民館 小学校 中学校 飯田産業センター 農産物加工場 観光客の誘引 新たな観光資源の創出

新聞社 飯田の新聞社と協賛して中心市街地では夕刊を馬が運ぶようにする。「馬が運ぶ新聞」として宣伝になる。

おもちや屋 既存の木製おもちゃ屋と協賛し飯田の木の木を使ったおもちゃを売り出す。

人形 飯田織 飯田和紙 飯田の人形づくりに、積極的に飯田の伝統工芸である和紙や織を用いることで、飯田の人形の特産品としての価値を高める

農家と連携して、採果した果物や商品にならない作物を染料として使う仕組みを整える